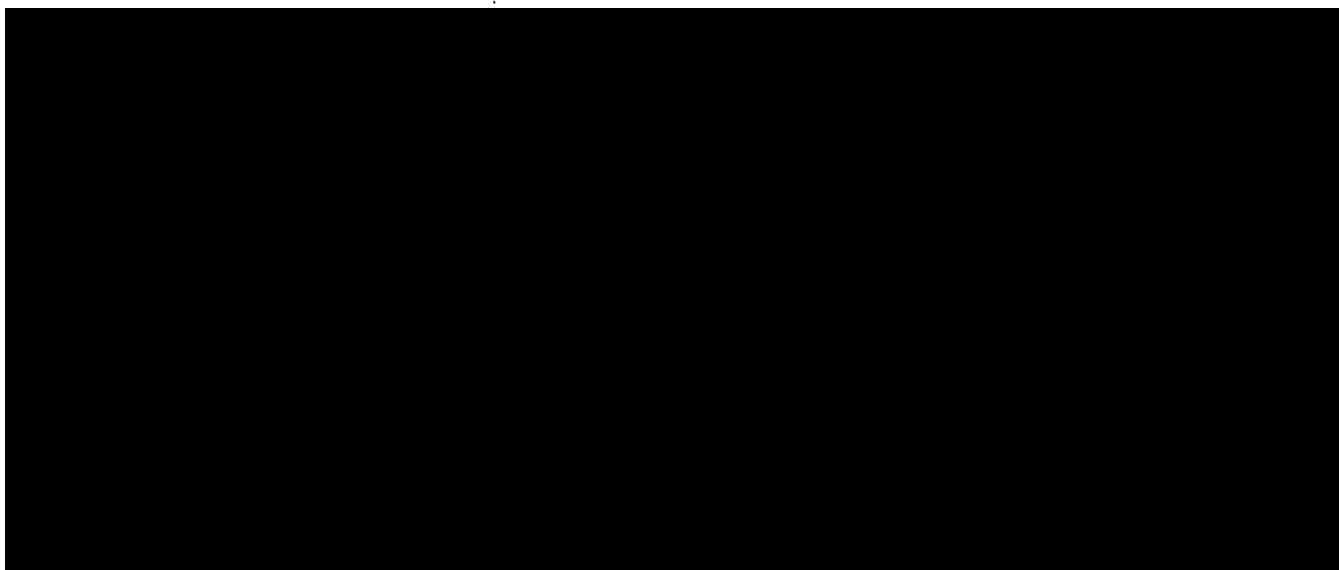


東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 工学部システム創成学科・3年

参加プログラム: 全学交換留学 派遣先大学: ニューサウスウェールズ大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員○ 4.非営利団体
5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()



派遣先大学の概要

オーストラリアのシドニーに所在するニューサウスウェールズ大学の社会学部の在籍。

留学した動機

高校生の頃から留学をしたいと考えていました。将来について具体的に動き出すこの時期に海外に身をおくことで、学業面だけでなく、自分を成長させることができると考えたからです。

留学の時期など

- ①留学前の本学での修学状況: 西暦[2014]年 学部 [3]年の[夏]学期まで履修
- ②留学中の学籍: 留学
- ③留学期間: 2014 年 7 月 ~ 2014 年 11 月 学部 [3]年時に出発
- ④留学後の授業履修: 西暦[2014]年 学部 [3]年の[冬]学期から履修開始
- ⑤就職活動の時期: 未定
- ⑥本学での単位数: 留学前の取得単位[43]単位 留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位[1.5]単位
留学後の取得(予定)単位[]単位
- ⑦入学・卒業/修了(予定)時期: 西暦[2012]年 [4]月入学 西暦[2016]年 [3]月卒業/修了
- ⑧本学入学から卒業/修了までの期間: [4]年[]ヶ月間
- ⑨留学時期を決めた理由: 就職活動をするのか院に行くのか、そういった将来のことを具体的に決める前に留学をして、自分がどのような道を進むべきかを見極めたかったからです。また、卒業時期を遅らせないためにはこの時期がベストだと考えました。

留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

留学前にオンライン上のシラバスを見ながらどの授業をとるのかを永遠と悩み続けましたが、実際に現地でアドバイザーの方に相談したり、授業を見てみないとわからないことが多いので、その時間は必要なかったと思います。私も現地に行った後に、取る授業をかなり変えました。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

健康診断に行かなくてはいけなかったり、色々とめんどくさいです。また直前になると、手続きが間に合うのかどうか悶々したり、かなりのストレスになるので早めに準備することをおすすめします。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

私の場合、健康に対してかなり気を使っていたので、健康面でのトラブルはありませんでした。留学先では病気になると面倒なので、普段から厚着をしたり、病気にならないような対策を心がけましょう。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

海外旅行の保険に入りました。幸いにも一切お世話になりませんでした。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

私の場合、学年を下りずに留学することにしたので、その前にたくさん単位をとりました。また、留学中に履修登録をし、教授にメールを送って留学期間中の出席点を他の形で認めて頂けるように交渉したりするのが大変でした。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

東大に出願する時点では語学要件に達していなかったため、その成績の塗り替えの勉強を必死にやりました。スピーキング対策はなかなか難しく、スカイプでの会話の授業を毎日行うようにしていました。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

壊れたりなくしたりしても簡単には買えないので、変換プラグはたくさん持っていった方がいいと思います。直前にバタバタしてしまいとても大変だったので準備は前倒しで行うことをおすすめします。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。

Asian pop culture, Social research and policy, introduction to the movement, mathematics1B

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

日本の大学と違って予習をしていかないとディスカッションに参加できません。リーディングやレポート等の課題を必死にこなしていました。また、UNSWは留学生の数がとても多く、普通の授業で西洋人ばかりに囲まれることはほぼありません。しかしIntroduction to the movementというdance majorの授業では、私以外全員が白人の現地の学生でした。また1人でただ授業を受けていればいい座学の授業とは違い、パフォーマンスの授業だったので、ペアを作って実際に体を動かしたりしなければならず、マイノリティーだからという理由で自分の殻に引きこもっている訳にはいきません。彼女達とどうやってコミュニケーションをとるのか、どうすればなじんでいけるのかということを毎回考えました。ダンスを専攻していない私にとって学問的な意味はなかったかもしれませんが、本当にいい経験だったと思います。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

Asian pop culture, Social research and policy, introduction to the movement, mathematics1B・12 単位

週当たりの授業時間 16.5 時間

授業以外の学習時間 14 時間

④学習・研究面でのアドバイス

だらだら勉強するのではなく、効率的に課題をこなし、現地の友達と遊んだり話したりする時間をきちんととるようにしていました。実際、勉強以外のそういった時間から学んだことはたくさんありました。

⑤語学面での苦労・アドバイス等

語学面では本当に苦労しましたが、分からない時や困ったことがあったときは素直に申し出る勇気が必要だと思います。私は初めそれができずに、適当にごまかしていました。先生や生徒もこっちが留学生であることを分かっているので冷たい対応をされることはありません。

生活について

① 宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

インターナショナルハウスという寮に滞在していました。友達のほとんどはここの入居者です。住んでいる学生はほぼ留学生なので、様々な国の人と知り合うことができました。イベントがたくさんあったのでとても楽しく、また勉強する時はきちんと取り組むという、メリハリのある空気が好きでした。3食ともついていて自炊する必要がなく、学校にもシティにも近くて便利、家賃も他の寮に比べると格段に安かったので、本当に最高の滞在先だったと思います。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

思ったより寒くて、毛布やコートなどの防寒着を現地で購入しました。ただ、UNSW はシティに近くとても便利でした。

お金に関しては出国前に10万円分をドルに変え、それ以外はクレジットカードを使うようにしていました。だいたいの場所でクレジットカードが使えるのでお金を送金してもらう必要はありませんでした。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気づけた点など)

シドニーはとても治安がよく、全くトラブルはありませんでした。

健康管理に関しては、風邪を引かないようにきちんと防寒していました。オーストラリアは一日の気温差がとても大きいので、いつも上着を一枚多めに持ち歩いて、調整出来るようにしていました。そのお陰で体調が悪くなることも一切なかったです。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空賃 14万円 家賃+食費 6500ドル 教科書代 50ドル 娯楽費 2000ドル

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

成績があまり良くなかったため、受給できませんでした。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

UNSW の日本語の授業のアシスタント(ボランティア)、language exchange program、カラーラン、ハーフマラソンへ参加

派遣先大学の環境について

① 留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

大学の公式のサポート体制も少しは利用していましたが、それよりも寮で出来た友達に様々な面で支えてもらっていました。その代わりに、日本語を教えてあげるなど自分にできる形でお返しをしていました。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

ジム、図書館、カフェ、寮のすぐ近くにこれらの施設があり、よく利用していました。本当に便利でした。

留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

留学前は自分の将来が漠然としていて何も見えていませんでしたが、留学中に一般企業に就職すること自体が自分には向いていないのではないかという考えに至り、またそれ以外の様々な要因により、今は昔からの夢だった外交官になりたいと考えています。

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

- 1.研究職 2.専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) 3.公的機関(機関名:)
4.非営利団体(団体名又は分野:) 5.民間企業(企業名又は業界:)
6.起業(分野:) 7.その他()

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

留学にいくということ。それは全く知らない人達と、全く知らない場所で、全く知らないルールに従って、一から生活を始めるということです。今まで築いてきた自分を全て崩されてしまいます。

もともと英語を話すことが得意ではなかった私は最初、何もできませんでした。日本では日本語が完璧に理解出来るというだけで、だいたいのはなんとなくてできてしまいます。仲の良い友達がいるので困った時は助けてもらえます。しかし、こっちはそうはいきません。英語が通じない、分からない、知り合いはいない、だから何もできない。そんな中で私は自信を失い、自分の存在価値を否定し、周りに対して距離をおいてしまいました。

そんなとき、ある学生と出会いました。彼女は日本語の勉強をしていて私に日本語を教えてほしいというのです。「日本語なら私にもできる」そう思い私は彼女と交流を始めました。

彼女との交流を深めるうちに徐々に私も心を開いていきました。その縁から、現地の日本語の授業のアシスタントをさせてもらえることになり、彼女だけでなく、それ以外の日本語専攻の学生とも話をするようになりました。その内に、英語を話すことへの抵抗も徐々になくなり、生活がうまくなるようになっていったのです。

日本に帰ってきて留学の半年間を振り返ると、本当に充実して楽しい生活を送ることができたといえます。しかし、結果的にそう思えるのは、あのときに思い切って日本語を使ったからです。

留学が始まった直後で、英語を話さなければいけないと思っていた私に日本語を使うことはとても抵抗がありましたが、自分がどうやったらこの環境で生きていけるのか、この場での自分の特技はなんなのか、それをどう使えばいいのか、そういったことを考えた上での結果でした。

日本語を使うことで、生活にとけ込めるようになってからも、アウェイの環境の中でどう身をこなしていくのか、4ヶ月間考え続けました。

学業的な面での成長もちろんありましたが、こういったことは、留学をしないとなかなか分からないことだったに間違いありません。

これからどういった進路を自分がとるのか、完全に決まった訳ではありませんが、どこに身を置くことになっても、その場で自分をどう発揮すれば良いのかを考えて行動することは、これからの人生に本当に役に立つことだったと言い切ることができます。

②留学後の予定

完全に決まった訳ではありませんが、外交官になりたいと考えています。工学部を卒業した後、公共政策大学院にいきながら、試験に備える予定です。

② 今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

“行くこと”が大事だと強く思います。例え自分の中で「どうして留学したいか」などの理由が明確になっていなかったとしても、行くこと自体に十分価値のあることです。1年近くかかった準備期間、様々なハプニングに見舞われ、それでも諦めずに最後までやりきったことは、自分の中で大きな自信になります。

また今後の人生に関わる程のモチベーションを、必ず留学中に見つけることが出来ると思います。私は、オーストラリアでたくさんの人に優しくして頂き、異国の地ですら、自分を助けてくれる人がたくさんいるということに気付きました。日本に帰ってから周りの人に対して、もっと優しい人になろうと思いましたし、特に日本の留学生に対してその恩返しをしたいと思います。

日本文化が現地でも人気があることにも驚きました。お寺などの伝統的なものから、アニメや漫画などの現代的なものまで、自分の方が知らないのではないかと思うほど、たくさんの方が興味を持っていました。人生で初めて自分が日本人であることに誇りをもちました。

そのようなことから、今は理系に進んでいたとしても、昔からの夢だった外交官になるという道をやはり目指したいと思うようになりました。

周りの話を聞いていると、留学に興味をもっている、手続きやその後の進路をどうするかという障壁に阻まれ、実際に行く人は多くありません。

留学をすることで人間的に成長が出来るのは間違いないので是非、勇気を持って留学してほしいと思います。

その他

① 準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

特になし。

② その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

メールに添付しておきます。